

日立と JW メディカル社が超音波診断装置の韓国独占販売に合意 画像診断装置の販売網を統合し、韓国におけるヘルスケア事業を強化

株式会社日立製作所(執行役社長兼 CEO:東原 敏昭/以下、日立)と JW Medical Corporation (本社:大韓民国(以下、韓国)ソウル市、会長兼 CEO:Kyung Ha Lee(キョン・ハ・リー)/以下、JW メディカル社)は、このたび、超音波診断装置の独占販売に関して合意しました。本合意により、JW メディカル社は、2016年11月から日立の超音波診断装置を韓国で販売します。JW メディカル社は製品ラインアップを拡充するとともに、日立はグローバルな販売チャネル強化により、事業拡大を図ります。

日立はヘルスケア分野を社会イノベーション事業における注力4事業分野の一つと位置づけ、画像診断装置、粒子線がん治療システムなどの診断・臨床分野から IT を活用したサービス、地域包括ケアなどのインフォマティクス分野まで、医療の質向上と効率化を実現するソリューションを提供しています。診断分野において、超音波診断装置は、グローバルナンバーワンをめざしており、診療科別ソリューションの拡充や販売網の拡大を図っています。

一方、JW メディカル社は1972年に韓国で医療用機器の製造販売会社として設立され、現在は、X線撮影装置、マンモグラフィ、MRI や CT などの販売を行っています。近年は、画像診断装置に注力しており、放射線科から消化器分野、女性医療の分野まで幅広い製品を提供し、社会と医療従事者および患者の幸福に寄与する「3Win 計画」を会社の方針として推進しています。

これまで、日立は JW メディカル社を通じて韓国で MRI や CT を販売してきましたが、今回、新たに超音波診断装置も JW メディカル社のラインアップに加え、同国における日立の画像診断装置の販売網を一元化することで、医療機関のニーズに合った画像診断装置のトータルソリューションを提供していきます。

日立の超音波診断装置 ARIETTA(アリエッタ)シリーズは、ベッドサイドでも使用できるコンパクトな機種から手術用途の機種まで幅広いラインアップを揃えています。他の画像診断装置と組み合わせることで、より高度な診断や治療が可能です。具体的には、超音波診断装置とマンモグラフィを組み合わせることで、乳腺と腫瘍の区別が難しく、見つけにくい乳がんの早期発見に繋がります。また、MRI や CT の画像情報を超音波診断装置上で同時に表示できる Real-time Virtual Sonography (リアルタイム バーチャル ソノグラフィ) 機能を用いることで、例えば、肝臓がんの内科的治療^(*1) 時の正確な超音波ガイド下穿刺^(*2) を行うことができるなど、身体的負担が少ない治療が可能となります。

今後、日立と JW メディカル社は、韓国市場における顧客ニーズに対応したソリューションを提供し、医療用画像診断装置のリーディングカンパニーをめざします。

- *1 内科的治療: ラジオ波焼灼(しょうしゃく)治療(電極針による肝臓がんの治療法)、カテーテル治療、放射線治療や薬による化学療法などの治療のこと。
- *2 超音波ガイド下穿刺(せんし): 超音波画像を見ながら、病変部に体外から針を刺す医療行為のこと。手術などの治療や、血液や細胞を採取して検査するために行われる。

■照会先

株式会社日立製作所 ヘルスケアビジネスユニット 診断システム事業部

第一グローバルセールス本部 [担当:本多(ほんだ)]

〒110-1105 東京都台東区東上野二丁目 16 番 1 号 上野イーストタワー

電話 03-6284-3668 (代表)

以上

このニュースリリース記載の情報(製品価格、製品仕様、サービスの内容、発売日、お問い合わせ先、URL 等)は、発表日現在の情報です。予告なしに変更され、検索日と情報が異なる可能性もありますので、あらかじめご了承ください。
